

国際ワークショップ「〈世界〉を通して見る日本文学・日本文学研究」 開催報告

2014年7月29日（火）16:30-18:30
於・戸山キャンパス 33号館第一会議室

2014年7月29日（火）に、戸山キャンパス33号館第一会議室において、早稲田大学国際学術院榎原理智研究室主催、総合人文科学研究センター早稲田大学比較文学研究室後援による国際ワークショップが開催された。

当日は、はじめに「〈世界〉を通して見る日本文学・日本文学研究」というテーマについて、総合司会の榎原理智氏（早稲田大学）による簡単な趣旨説明があったのち、まず塩野加織（早稲田大学）が「世界の読者」の読者の視点」と題して、ゲストである河野至恩氏の著書の概要説明と論点整理を行なった。続くマイケル・エメリック氏（カリフォルニア大学ロサンゼルス校）は、「トロイの木馬」と題する発表のなかで、河野本をめぐる〈外部／内部〉の視点や「われわれ」という表現にみる批評性を指摘した。次の河野至恩氏（上智大学）による「〈日本研究〉と〈世界文学〉の間で」という発表では、先二名の発表内容に応答しつつ、著書に関する執筆背景や問題意識について補足説明があった。

三名の報告の後は、ディスカッサントであるロバート・キャンベル氏（東京大学）と十重田裕一氏（早稲田大学）が、さらに視野を拓けながら、〈文学〉をめぐる経済状況とメディアの問題、あるいは、文学研究とポピュラーカルチャーとの隔たりについて意見を交わした。最後の質疑応答では、会場に集まった参加者とのあいだで、日米間の研究環境をめぐる齟齬や、〈文学〉の質的差異に対する議論がなされた。

（報告 塩野加織）